



投資信託は値動きのある株式や債券等に投資しますので、投資信託の値段（基準価額）は株式市場などの動向によって変動します。
一般的に投資信託の主なリスクには下記のものがあります。

価格変動	投資信託が組み入れている有価証券等の価格は、国内外の政治・経済情勢、企業の業績、市場の需給等によって変動します。 組み入れている有価証券の価格が下落した場合にはファンドの基準価額が下がる要因となります。
金利変動リスク	金利の状況は絶えず変動しています。債券も償還前に売却される場合は金利変動の影響を受けます。概して残存期間が長い債券ほど金利変動の影響を受けます。一般的に、金利が上昇した場合には債券の価格は下落し、ファンドの基準価額が下がる要因となります。
信用リスク	組み入れた有価証券等の発行体にかかるリスクです。発行体の経営・財務状況やそれらの外部評価等により、利息や元本が支払われる可能性が高いことを「リスクが低い」、逆に支払われる可能性が低いことを「リスクが高い」といいます。一般的に、債務不履行が生じた場合または予想される場合には当該公社債等の価格は下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が下がる要因となります。
為替リスク	円と外貨通貨の交換レートは常に変動しています。外国の株式や債券などで運用する投資信託は基本的に為替リスクが伴います。外貨建証券が現地通貨建てでは値上がりしている場合でも、当該現地通貨の為替相場の対円での下落（円高）度合いによっては、当該証券の円ベース評価額が減価し、ファンドの基準価額および分配金に影響を与える要因になります。
流動性リスク	有価証券を売買する際、取引市場に十分な需要や供給がない場合など需給動向により希望する時期、価格等で売買できなくなるリスクをいいます。一般的に、投資する有価証券の流動性が損なわれた場合にはファンドの基準価額が下がる要因となります。
カントリーリスク	海外の有価証券に投資する場合、投資する国の政治・経済情勢の悪化、外国為替規制、資本規制、制度変更等による影響を受けることがあり、基準価額が下がる要因となります。
不動産投資信託のリスク	不動産投資信託は、不動産を実質的な投資対象としているため、他の金融商品と異なる固有のリスクとして、火災・自然災害などの影響や不動産にかかる法制度の変更に伴い不動産の価値が低下するリスクがあります。
特定の業種への投資リスク	各ファンドで実質的に投資する株式などの銘柄は、限定された業種が中心となります。したがって、幅広い銘柄に分散投資を行うファンドと比較して基準価額の変動が大きくなる可能性があります。